様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２２　年　６　月　２４　日現在

研究種目：若手研究　(B)
研究期間：　2008　～　2009
課題番号：20730536

研究課題名（和文）多文化社会における主流言語教育の研究 オーストラリアの移民英語プログラムを中心に

研究課題名（英文） Education of the mainstream language in a multicultural society -Australian Adult English Program-

研究代表者
渡辺　幸倫　(WATANABE YUKINORI)

研究者番号：60449113

研究成果の概要（和文）：
本研究では、多文化社会における主流言語教育の持つ課題を考察するために、オーストラリアにおける成人移民英語プログラム(Adult Migrant English Program、AMEP)の展開を、プログラムに関する総合的な研究を行っている成人移民英語プログラム研究所(AMEP Research Centre、AMEP RC)の役割に注目し、運営や研究活動、そして関係各者との協働のあり方を検討した。
具体的には、各種の文献による調査に加えて、同研究所の主要な研究所員 7 人にインタビューを行い、各研究員の研究所での役割、業務として行っている研究内容、研究への動機・目標、研究遂行上の課題の 4 つを中心に語ってもらい内容を分析した。結論としては、AMEP RC が果たしている役割は、1) 広く社会における移民に対して存在する様々な社会的要請の取捨選択、2) それに基づいた研究や教師教育のプロジェクトの遂行、3) 専門的な意見としての研究成果の移民市民権省(Department of Immigration and Citizenship)への提出、4) これら一連の仕組みを通して AMEP の教育プログラムを向上させることなどが確認された。ただし、各種のプロジェクトの計画作成段階から学問的必要性や現場の教師の要望だけでなく政府の意図が考慮されていること、プロジェクトの承認は政府の方針に強い影響を受けていることなどから、結果として移民省の意図を学問的に権威付ける役割を果たしているという側面も指摘できた。また、多くの研究員から任期制の研究職であることに起因する懸念が語られた。これは研究遂行上の強い動機になっているとともに精神的に大きな負担にもなっている事も観察された。
本研究のように社会の要請と現場の言語教育とのつながりを可視化していく作業は、移民の権利保障の枠組みを明らかにすることであり、多文化社会における主流言語教育の持つ課題を考察することでもあった。多文化・多民族化が加速しつつある日本のあり方を構想する際には有用な視点となることであろう。

研究成果の概要（英文）：

This research project examines the Australian Adult Migrant English Program (AMEP), a federally-funded settlement program through the Department of Immigration and Citizenship (DIAC). The objective of the project is two-fold: first, it aims to illuminate the role of AMEP research Centre (AMEP RC, 1989-2009), particularly with regards to the experience of its researchers and administrative staff. The AMEP RC was established at Macquarie University, Australia, in 1989 in order to improve the AMEP Program and provided various research and development services until 2009. Second, the project endeavors to explore the ways in which AMEP RC's experience can be meaningfully applied to Japan's future language program for adult migrants.

To this end, I conducted interviews and fieldwork with seven staff members of the AMEP RC, including the Executive Director, in August 2008. The interviews lasted approximately 60 to 90 minutes and the following questions were asked; a) their role at the research centre, b) their experience in conducting research projects and providing other types of AMEP- related services, c) their motivation and goals as researchers and d) challenges they face at the research centre.

The main findings of the project are as follows: The AMEP RC; 1) selects research topics based on the needs of clients and a wider society as well as the academic expertise of its researchers, in consultation with the funding body, DIAC, 2) conducts a various types of research and provide teacher development workshops and 3) reports its research outcomes to DIAC. This flow ensures that the program is constantly enhanced based on findings from their cutting-edge research. At the same time, however, it was also voiced that the funding arrangement accorded limited flexibility to the AMEP RC in terms of selecting research topics, for example. In addition, several staff members raised their concern regarding the condition of their employment at the research centre. The majority of the staff members were hired on a contract basis, and they expressed a great deal of stress from having to perform at work and look for further employment at the same time.

In conclusion, the project found that the AMEP RC played an important role in improving the quality of the AMEP Program and the AMEP model has significant potential for the Japanese system, particularly in terms of integrating research findings into settlement programs. However, the funding process and hiring schemes employed at the AMEP RC may not be directly applicable. Further study is needed to elucidate what types of hiring and funding processes are most effective in the Japanese context.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	600,000	180,000	780,000
2009 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教育社会学
キーワード：オーストラリア・移民・英語教育・Adult Migrant English program・AMEP Research Centre

１．研究開始当初の背景

日本で人口減少による労働力不足を始めとする経済的理由などから政策的な移民受け入れが不可避であると論じられるようになって久しい。日本における外国人登録者数は、2007 年に 208 万人を超え、外国人の集住地域では、多文化･多民族化は日常的な景観となっている。近年、外国人登録者数が地域住民の約半数と国内でもきわめて外国人住民の割合が多いとされる新宿区百人町・大久保地区では、急速な都市空間の変容が進んでおり、日本社会への主体的な参画には日本語力がきわめて重要な役割を果たしていることが指摘されている。しかし、残念ながら外国人住民の中でも特に学齢期にない成人に対する日本語教育は地方自治体、市民ボランティアベースでの様々な取組はあるものの、日本全国を俯瞰した総合的な教育の方針を見るに至っていない。

一方、オーストラリアでは 1970 年代には非常に排他的な白豪主義から多様な人々を受け入れる多文化主義へと移民政策を大転換させ、現在は多くの課題を持ちながらも多民族の共生する社会を築いたと一定の評価を得ている。この過程で全国プログラムであるオーストラリアにおける成人移民英語プログラム（Adult Migrant English Program、AMEP）が果たした役割は大きいとされており、このような経過をたどったオーストラリアの経験を批判的に検討することは、日本の移民施策への示唆を求める先として高い価値がある。

２．研究の目的

AMEP の活動は我が国でも 1990 年代初頭から注目を集めており、そのプログラムの運営、歴史的展開、社会における位置付け、教育内容などについては一定の研究の蓄積がある。そこで本研究では、これまでの研究を基礎にしながら成人移民英語プログラム研究所（AMEP Research Centre、AMEP RC）に注目する。AMEP RC は、AMEP の教材やカリキュラムの開発、学習者に関する各種調査研究を行っており AMEP のあり方に重要な役割を果た

している。AMEP RC の活動や役割を行政担当者をはじめとする関係各所との協働の枠組みの中で検討した。

このようにオーストラリアの事例を通して、研究、教育現場、行政などとの関係を考察することは、多文化・多民族化が加速する日本社会への応用を構想する際に重要な示唆を与えてくれることであろう。

３．研究の方法

現地における調査を 2008 年 8 月 5 日～29 日と 2009 年 7 月 9 日～19 日の二回行い、また、2009 年 11 月 16 日～20 日には AMEP RC の研究員高橋君江博士を専門家として招聘し情報収集および研究内容の検討を行った。それぞれの位置づけは、2008 年 8 月の現地調査は長期間滞在し AMEP RC の観察をしながらも本研究の中心となるインタビューを実施、2009 年 7 月の二回目の現地調査はインタビュー対象者を中心に前年の調査の成果に対するフィードバックを収集、2009 年 11 月の研究員招聘では現地の文脈から離れた日本で長時間にわたり AMEP RC の現地調査当時及び最新の状況、2009 年 7 月に得たフィードバックを反映した研究成果に対する意見などを得た。

４．研究成果

結論としては、AMEP RC が果たしている役割は、１）広く社会における移民に対して存在する様々な社会的要請の取捨選択、２）それに基づいた研究や教師教育のプロジェクトの遂行、３）専門的な意見としての研究成果の移民市民権省（Department of Immigration and Citizenship）への提出、４）これら一連の仕組みを通して AMEP の教育プログラムを向上させることなどが確認された。ただし、各種のプロジェクトの計画作成段階から学問的必要性や現場の教師の要望だけでなく政府の意図が考慮されていること、プロジェクトの承認は政府の方針に強い影響を受けていることなどから、結果として移民省の意図を学問的に権威付ける役割を果たしているという側面も指摘できた。

本研究のように社会の要請と現場の言語教育とのつながりを可視化していく作業は、移民の権利保障の枠組みを明らかにすることであり、多文化社会における主流言語教育の持つ課題を考察することでもあった。多文化・多民族化が加速しつつある日本のあり方を構想する際には有用な視点となることであろう。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　1 件）

渡辺幸倫，オーストラリア成人移民英語プログラム（Adult Migrant English Program）の研究：成人移民英語プログラム研究所（AMEP Research Centre）の役割と課題：聞き取り調査を中心に，相模女子大学文化研究，第 28 号，2010，pp.1-17

〔学会発表〕（計　3 件）

渡辺幸倫，“Adult language learning in Japan” Adult Migrant English Program Research Centre, 2008 年 8 月 21 日 Macquarie University, Australia

渡辺幸倫，オーストラリア成人移民英語教育の研究，日本社会教育学会（和歌山大学），2008 年 9 月 20 日

渡辺幸倫，オーストラリアの成人移民に対

する教育の研究，日本国際教育学会（東京外語大学），2009 年 9 月 13 日

〔図書〕（計　1 件）
渡辺幸倫，「オーストラリア人になるためのテスト　ーシティズンシップテストに関する論争の考察」（早稲田大学オーストラリア研究所編『オーストラリア研究　多文化社会日本への提言』），　オセアニア出版，2009 年，pp.11-29（全 260 ページ）

〔その他〕
ホームページ等
相模女子大学の大学教員紹介ページにリンク作成予定
http://www.sagami-wu.ac.jp/

翻訳
イングリッド・ピラー（渡辺幸倫訳）「英語を通した社会的包摂-言語政策と移民計画」（川村千鶴子、近藤敦、中本博皓編著『多文化政策へのアプローチ』），明石書店，2009 年，pp.259－261（全 288 ページ）（研究対象の移民英語教育研究所所長によるオーストラリアの移民に対する英語教育政策についての小論の翻訳）

６．研究組織
(1)研究代表者
渡辺　幸倫（WATANABE YUKINORI）
相模女子大学・学芸学部・講師
研究者番号：60449113

(2)研究分担者
（　　）
研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）
研究者番号：